

大学

企画課管理用 研 一 A 一 2

推進主体	図書館
責任者	図書館長

分類			実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
研	一	A	②大学院学生の研究環境の整備	令和 4 年度	令和 9 年度	あり(予定)

① 目的・内容

本学大学院生の研究に不可欠なILLサービス(複写サービス:他大学からの論文複写取り寄せ、貸借サービス:他大学からの資料そのものの取り寄せ)を段階的に無料化することにより、研究に必要な経済的負担を軽減し、大学院生の研究環境を向上させる。ILLサービスは、本学で所蔵していない資料、本学で契約しているデータベースから入手ができない資料やインターネット上で公開されていない資料を入手するために多くの大学院生が利用している。しかし、利用にあたっては現在、複写料金や片道分の送料等の依頼先機関から請求された費用を利用者本人である大学院生が負担している制度となっている。その結果、利用回数の多い場合や送料が高額となる海外から資料を取り寄せる場合等、ILLサービスを積極的に利用する大学院生の費用負担が大きいことが課題である。この経済的負担を段階的に無料化していくことで、大学院生が必要な資料をより入手しやすい環境を整備し、その研究活動を支援したい。

なお、実施にあたってはサービス種別(論文複写取り寄せ、資料貸借)及び支払い区分(NII相殺システム※利用、銀行振り込み等NII相殺以外)並びに依頼先国(国内か海外か)の段階別に分け、段階的に拡大することでスムーズな移行と柔軟な制度設計の見直しを図る。

※NII相殺システム:NII(国立情報学研究所)によるILL文献複写等料金相殺サービスのこと。NIIのILLシステムを介した依頼・受付情報をもとにシステムで加盟館同士の料金が相殺される。四半期に一度、料金相殺の結果がNIIにより通知され、支払・請求される。

② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。

ILLの段階的な無料化により大学院生の経済的負担を軽減する。

③ ロードマップ

年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
予定		開始① (複写・NII相殺システム)					
			開始② (貸借・NII相殺システム)				
				開始③ (銀行振込等)			
					開始④(海外)		

④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。

指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							
2							
目標							
実績							

(様式2) 実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
(2022年度) 令和4年度	NII相殺システム利用支払いでの複写サービスについて無料化を開始する。(利用増大に伴うサービス低下を懸念し、貸借サービスは、令和6年度から開始)	計画通りに複写サービスの無料化を開始した。その結果、申込数が約1.3倍となっており、大学院生の経済的負担を軽減する目的に向けて今後も継続する。 ★進捗段階:「実施展開」
(2023年度) 令和5年度	引き続き、NII相殺システム利用支払いでの複写サービスの無料化を行う。 新館移転に伴うILLサービス全体の利用増加が見込まれるため、次年度の無料化拡大に向けて実績の検証と次年度計画の見直しを行う。	前年度に引き続き、NII相殺システム利用支払いでの複写サービスの無料化を実施した。新館移転に伴うILLサービス全体の利用増加を見込んでいたが、申込数は過年度と同程度だった。令和6年度は複写サービスの予算額を減額見直し(5倍→2.5倍見込み)とした。 また、令和6年度が開始初年度となる貸借サービスの予算額については、計画提出時と同額とした。 ★進捗段階:「実施展開」
(2024年度) 令和6年度	引き続き、NII相殺システム利用支払いでの複写サービスの無料化を行う。 また、令和6年度より新たにNII相殺システム利用支払いでの貸借サービスの無料化を開始する。これにより、NII相殺システム利用支払いでのILLサービス利用については、複写・貸借に関わらず無料化の対象とする。	
(2025年度) 令和7年度		
(2026年度) 令和8年度		
(2027年度) 令和9年度		